

奈良県自然環境保全審議会 鳥獣部会  
会議録

1 日時：平成28年9月7日（水） 13:30～16:30

2 場所：奈良県文化会館 第3会議室

3 出席委員（部会長以下五十音順）

高橋部会長 上田委員 松尾委員 八代田委員 横山委員 吉岡委員

4 審議会の開会

・会議の成立について

委員8名中、6名の出席があり、奈良県自然環境保全審議会運営要綱第4条第4項の規定により会議は有効に成立する旨事務局から報告

・部会長の選出

高橋委員が部会長として選任された。

・会議録署名人の指名

高橋部会長から、会議録署名人には上田委員および吉岡委員が指名された

・審議会の公開について

「奈良県自然環境保全審議会の会議の公開等の取り扱い」で原則公開と規定されており、本日の部会も公開と決定

5 議事の概要

<審議案件>

第1号議案 立里荒神鳥獣保護区特別保護地区の指定について

■説明

（事務局）

指定計画書【案】、設定調査報告書、公聴会調書により概要を説明

■意見等

（松尾委員）公聴会において出された意見について、今後のどのように取り組んでいくのか。案内板が劣化し、何書いてあるか読みづらい。

（事務局）公聴会の時には、計画には異論はないがシカ対策については配慮願いたいと言われて終わっている。景観・自然環境課、文化財保存課に公聴会でのご意見を伝えた。農業水産振興課としては、捕獲を強化し密度の低減を図っていく。案内板の経年劣化については対応検討する。

（高橋委員）この辺りのシカの生息密度調査は実施しているか。

（事務局）県全体で調査はしている。今年度の捕獲事業に伴う調査を野迫川村内で予定している。

（上田委員）シカの被害は県全体で大変な状況。シカ皮の利用など、捕獲個体の有効利用が進めば、捕獲促進につながりシカ害も低減が期待できるのではないか。

(松尾委員) 調査は 10 年後なのか。環境が変わった時に計画の変更見直しは可能なのか。

(事務局) 調査は必要に応じて実施可能。指定される状況でなくなれば、解除手続きはある。

(八代田委員) 今のままだとシカ被害が進んでいく可能性が高い。今後、捕獲強化を実施するのであれば、捕獲の効果を見るような調査を組むのがいい。

(横山委員) 積極的な捕獲活動をしていくなれば、毎年個体数管理の効果を見て、安定低密度での管理を探っていくのが理想。シカも在来種なのでゼロにする必要はない。

(高橋委員) ご意見を踏まえ、調査・検討するというところで、奈良県指定立里荒神鳥獣保護区特別保護地区指定計画を承認頂ければと思う。

→ 原案どおり承認

#### < 報告案件 >

##### (1) 奈良県ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画 平成27年度モニタリング報告について

###### ■ 説明

(事務局)

調査方法や結果について概要を説明

###### ■ 意見等

(八代田委員) 環境省の個体数推定の中央値は何頭か。

(事務局) 約 47,000 頭。

(八代田委員) 奈良県の現在の捕獲目標は年間 8,000 頭で、うちメスを 6,000 頭捕った場合、計画目標まで個体数を下げられるという設定か。

(事務局) 現計画策定時に、計画目標を鳥獣保護区が 5 頭 / k m<sup>2</sup>、それ以外の区域が 2 頭 / k m<sup>2</sup> と設定し、奈良県全体の目標生息数を 6,700 頭とした。計画策定時の推定個体数から平成 32 年に目標の 6,700 頭に誘導するには年間 8,000 頭捕る必要があり、その内訳としてメス 6,000 頭、オス 2,000 頭で目標に達するとしている。

(横山委員) 年間 8,000 頭捕って密度指標はどういう状況になったか。

(事務局) 地域によっては多少の増減があるが県全体で見ると、目撃効率、捕獲効率は横ばいかやや増えている。

(横山委員) 指標が下がらないということは捕獲圧が足りてないのではないかと思う。指標が下がる傾向が今年の調査で見えてこないなら思い切って捕獲圧を上げないと目標に追いつかなくなるとするのが兵庫県での経験から感じる。

(松尾委員) 周囲の声を聞く範囲では被害は一向に減っておらず、施策の結果が出ていないのではないか。原因を明確にし、専門の先生方のご意見を聞いて、計画と施策をしっかりと立ててほしい。

(事務局) 県では、人材の育成と生息環境管理、被害の防除、駆除等総合的な取り組みを支援し

ている。銃の射撃講習、被害の防除、捕獲の支援、柵の設置経費の支援など必要な対策に取り組んでいく。

（横山委員）兵庫県は、猟友会依存ではなく地域住民も参加するという、地域での捕獲体制を指導し成功している。毎年モニターし、チェックしながら進めるのがいいと思う。

（上田委員）47都道府県の中で猟友会の会員が増えているのは奈良県がトップ。県と協力して各種講習会等に取り組んだ結果、会員が増えて捕獲が進んでいる。銃猟者が減少しているので、これを増やせば捕獲が進むと思う。

## （2）奈良県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画 平成27年度モニタリング報告について

### ■説明

（事務局）

調査方法や結果について概要を説明

### ■意見等

（高橋委員）イノシシの農作物の被害面積と被害金額の推移は減少傾向に見えるが、農業被害意識の動向を見ると「増えた、変わらない」が圧倒的に多い。これをどのように考えているのか。

（事務局）平成22年度以降被害金額、被害面積の減少傾向は、国の交付金制度などにより対策が進んできたことが考えられる。農林業者の意識は以前よりは少しは改善したが許容できる範囲でない、との回答と考える。農林業被害はピーク時から減少傾向ではあるが、被害は高止まりと認識している。

（横山委員）イノシシの場合は、郡部では対策が促進され生息数が低下し、北部の人口密度の高い市街地周辺で生息が増えてきているのではないかと。兵庫県でも郡部ではシカ、イノシシ対策が進んでイノシシの密度が低下しているが、神戸とか市街地・都市部で今、激増している。市街地周辺でイノシシの管理を強化された方がいいのではないかと。地域で分けてみると、被害面積・金額と意識との傾向が見られるかもしれない。

## （3）奈良県ツキノワグマ保護管理計画 平成27年度モニタリング報告について

### ■説明

（事務局）

調査方法や結果について概要を説明

### ■意見等

（八代田委員）学習放獣の是非の判断に関して、クマ大量出没年であるかどうかと書いているが、これは大量出没年であったら捕殺する、ということか、

（事務局）奈良県は堅果類の結実調査を始めたところであり、大量出没年を予測するための情報収集している段階。先行している県の情報などを参考に、どのように判断するのが正しいことなのか検討しているところ。

（横山委員）保護計画ではなくて保護管理計画か。

（事務局）一種、二種ではなく、保護管理計画。今後調査しながら一種計画を作るのか、二種計画になるのか、任意計画のままで経過するのかを検討予定。

（横山委員）林業被害はあまり変わっていないが、目撃件数は減少傾向か。過去に比べて狩猟者

の目撃場所が、エリア縮小しているということか。

(事務局) 生息域が狭まってきている訳ではない。年によって通常の生息域の外側で目撃があったり、生息域の中で収まっていたりが繰り返されている。

(横山委員) 堅果類の豊作年と大量出没年とそれ以外の通常年とで区分すれば、傾向が把握できるかもしれない。

## <その他>

### ・第12次鳥獣保護管理事業計画書の策定について

#### ■意見等

(松尾委員) これまでの意見を反映させた計画を策定してほしい。

### ・奈良県ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画(第6次)の方針について

#### ■意見等

(吉岡委員) どの程度の糞粒・糞塊がその広さに落ちてたら、 $k\text{ m}^2$ 当たり5頭になったという事になるか、教えて頂きたい。

(八代田委員) ベイズ法では、糞塊法データや捕獲時の目撃効率といった色々なデータを全部混ぜてする。この数字だけ見て計算できない。糞塊密度は、相対的な増減の指標の一つ。

(松尾委員) 計画策定できたらもう一度部会を開催し、知事へ答申するのか。

(事務局) 年度末に審議会開催し、知事へ答申予定。

(松尾委員) 計画作るに当たり、三重県や和歌山県など隣接府県情報交換して、5ヶ年計画作った方がいい。

(高橋委員) 県の事情もあり、難しいかもしれないが、調整頂ければよろしい。

(上田委員) 三重県と奈良県との境で猟師同士が同じ日に協力して捕獲している事例もある。

(事務局) 隣接する県で、データとか情報交換しながら計画策定に活かしたい。

(八代田委員) 奈良県は2年前から糞塊法だが、三重県と和歌山県はどうか。

(事務局) 三重県は糞塊法と聞いている

(事務局) 先程兵庫県の例を出して頂きました様にちょっと今の計画では十分でないというお話がありました。これから現在の奈良県の生息数を推定する作業に入ります。甘いのではないかのご意見を踏まえ、検討させて頂きたいと思います。

(松尾委員) 8,000頭しか捕らない、捕れないと言うんでしたら、例えば鳥獣を奥山に追い上げ、奥山で暮らしてもらうような施策に持って行くか、やっぱり捕らな被害が軽減できませんという方向でいくのか、きちっとした方向性が見えない。

(八代田委員) 第6次計画5年の中で、途中で捕獲目標頭数を変更すること可能か。

(事務局) 必要に応じて計画は変更出来ます。

(八代田委員) 奈良県全域でシカが多い地域、少ない地域があると思うが、地域わけて設計すること可能ですか

(事務局) それも検討したい。

(高橋委員) 生息密度と被害の関係を把握して、指標とすることも検討してはどうか。

#### ・奈良県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画（第4次）の方針について

##### ■意見等

(高橋委員) 現計画の目標は相当ハードルが高く、目標と現状に差ができすぎている。被害が「ほとんど無い」「軽微」という回答の割合を増やすといった目標も検討してはどうか。捕獲数も過去3年平均である年間6,000頭以上として、できるだけ捕って1～2年で見直しながらすすめてはどうか。

(事務局) 計画の目標設定等、検討する。

#### ・奈良県ツキノワグマ保護管理計画（第4次）の方針について

##### ■意見等

(八代田委員) 生息数調査は平成20年実施以降はやってないのか。今年度から実施するカメラトラップ調査は生息状況調査ということか。

(事務局) 今回カメラトラップによる調査を3年間予定。同一個体が何回か撮影できると行動圏も検討できる。これだけでは情報が少ないので、最終年にはアンケート調査も実施したい。

#### ・天然記念物「奈良のシカ」に関する第二種特定鳥獣管理計画について

##### ■意見等

(八代田委員) 今までこの地域では捕獲していないのか。

(奈良公園室) 奈良公園で保護はしていたが、管理という面での捕獲は一切していない。

(八代田委員) 生息数調査等されたかと思うが、D地区を選んだ理由は何か。

(奈良公園室) D地区は元々農家の方が奈良市、春日大社に鹿害訴訟され、最終的に裁判で決着した文化庁で示された区分をベースにしている地区。今年3月の総会で若干見直しD地区を管理地区として設定し、管理の実施を考えている。

(八代田委員) 目標は県の第二種計画の5頭/k㎡なり2頭/k㎡に準じた形でされるのか、

(奈良公園室) これからの検討事項。被害状況を受けて考えねばと考えている。

(松尾委員) 奈良のシカというのは全部天然記念物か。

(奈良公園室) 天然記念物の地域は奈良市全域、奈良市地域は合併前の月ヶ瀬村、都祁村を除く旧奈良市一円とされている。

(吉岡委員) 被害がかなり出ているので、管理してくれという声が強い。最終的には文化庁協議して、保護すべきは保護し、緩衝帯の外は管理という考え方。

(松尾委員) 管理に反対と言ってるのではないが、この部会で計画作る必要があるのか。文化庁が管理して文化庁が殺処分したらよいのでは。

(奈良公園室) 文化庁の原状変更許可申請には、第二種特定鳥獣管理計画が必要という位置づけ。

(松尾委員) 策定するのであれば、どのような計画か具体的なものを示す必要がある。

(奈良公園室) 現在計画策定中。